

群馬県立前橋西高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	・目標や計画を立て、前向きに挑戦し、自分の経験を振り返ることで、次なる目標や計画につなげることができている生徒が70%以上である。	・スクールポリシーやランドデザインとプロセスを共有し、二者面談や授業、学校行事等の場面で、生徒への指導、支援を行う。	A	A	A	81%の生徒が「目標や計画を立て、前向きに挑戦している」と回答した。二者面談や授業、学校行事等の場面で引き続き、生徒の目標意識向上への指導・支援を行いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や計画を立て、前向きに挑戦するには、「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」課題解決能力の育成が重要である。 ・生徒主体的に協動的な学びを実現する学習指導を意識してほしい。 ・自己有用感を育てる行事や取組は重要なので、それが実感できるように、意識をして力を入れてほしい。 ・「前橋西高校が好き」が84%は、すばらしい。その理由や要因を明確化、分析して、学校づくりに活かしてほしい。「好き」ということが「誇りに思える」につながるの、そのような生徒を増やしてほしい。 	
		・少人数制の授業形態(数学・英語・体育)に、生徒の80%以上が満足している。	・少人数による授業を活かし、双方向できめ細かな学習指導を実施し、学習内容の十分な定着を図る。	A	A	A	97%の生徒が「少人数制の授業形態に満足している」と回答した。少人数授業の特長を生かし、今後もきめ細やかな学習指導を行う。		
		・学校行事に、生徒の80%以上が満足している。	・「体育祭」、「芸術教室」、「マラソン大会」等の行事や部活動、委員会活動の充実を図り、生徒が主体的に活躍する場面をつくる。	A	A	A	81%の生徒が「学校行事に満足している」と回答した。目標値は達成されているものの昨年度比10%マイナスとなり、学校行事の充実を図る必要がある。		
		・自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	・安全、安心な学校づくりの実現に向けて、学校生活全般で生徒観察や声かけを行い、自己有用感や帰属意識を高めさせる。	A	A	A	84%の生徒が「前橋西高校が好きである」と回答した。目標は達成はできたが、100%を目指し、学級経営や授業、学校行事を通して自己有用感や帰属意識を高めたい。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	・授業を受けることで、学習内容が理解でき、学力が身についたと感じている生徒が70%以上である。	・丁寧な授業展開を図るとともに、生徒の実態に適した課題設定を行う。	A	A	A	92%の生徒が「授業を通して学力が身についた」と回答した。今後も学習内容の精選、授業展開の工夫、ICTの活用について日頃より実践を積み重ねる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は受けるものではなく、生徒自ら学ぶ場であると考え、課題解決的、探究的な学習活動を授業で行ってほしい。 ・あわせて総合的な探究の時間の質的改善も重要である。 ・総合的な探究の時間について、社会につながる探究活動の充実を図ってほしい。 ・4割の生徒が家庭での学習がないことに驚く。その分社会経験をさせ目標意識を持たせると進路選択に役立つ。アルバイトを通して、社会と接することは、勉強することでもあり、業種への向き不向きを考えることにも役立つ。 	
		・進路実現に向けた学習指導に、生徒の70%以上が満足している。	・主権や早朝、そして長期休業中の課外を充実させ、生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、一層の学力向上を図る。	A	B	B	主権課外・早朝課外等への参加者を増やし、学力向上と進学に向けた学習指導を計画的かつ継続的に行う。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・目標の実現に向けて計画的に学習を継続し、日常的に家庭学習を行っている生徒が80%以上である。	・キャリア教育の充実を努め、進路の実現を念頭に学習意識を高めて、生徒が自ら学習に取り組むように、進路講演会やLHR、総合的な探究の時間の充実を図る。	B	B	B	59%の生徒が「目標の実現に向けて継続的に家庭学習を行っている」と回答した。進路講演会やLHR、総合的な探究の時間の充実を図る。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・生徒指導に関する校則を、生徒及び保護者の80%以上が理解し、納得した学校生活を送っている。	・生徒会を中心として、生徒が主体的に校則について検討する場を設け、校則を見直すとともに、多くの生徒へ情報発信を行う。	A	A	A	生徒会を中心とし、現在の校則について検討し、見直しを図った。来年度以降も継続して見直しをし、生徒が主体的に校則を守り、充実した学校生活が送れるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策はきめ細かにやっているようである。いじめの防止や対応については、目の前の問題に対応する発達支援的生徒指導という課題解決的な指導だけでなく、成長を促す指導を重視してほしい。学校と家庭との連携も重要である。 ・生徒のより充実した学校生活に向けて、「社会とつながる」「未来を探る」などの経験ができることよい。 	
		・部活動に、生徒の60%以上が積極的に取り組み、継続的に活動をしている。	・部活動の活性化に向けて、「リーダーとなる生徒を育てるとともに、活動内容や指導方法などの改善に取り組む。	A	A	A	新入生に対しての部活動紹介を充実させ、部活動加入率の向上に向けた取り組みを行った。また、校内マナーアップ運動の参加など部活動以外の場でも活躍を促した。今後さらに部活動の活性化を図るために、環境を整備するとともに、目標実現に向けて取り組めるように支援する。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると生徒の80%以上が認識している。	・「学校いじめ防止基本方針」を丁寧に説明する。	A	A	A	いじめ対策は、未然防止及び早期対応が図れるよう、適宜観察と情報収集を実践できた。学校生活アンケート等を実施し、教育相談係・スクールカウンセラーと連携して、情報を共有し、職員の共通理解のもとで未然防止に取り組んだ。発生したいじめについては、組織的に対応し、解消に努めた。また、職員研修を行い、法律に沿った組織的対応の周知をした。		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・欠席率、平均遅刻者数について、前年度以下とする。	・欠席、遅刻、早退の防止に向けて、職員間の情報共有を徹底するとともに、保護者との連携の強化を図る。	A	A	A	保護者の理解と協力の下、時間を守ることの大切さを指導するとともに、朝のあいさつ運動を継続的に実施できた。また、毎月校内マナーアップ運動を実施し、遅刻防止につなげた。今後も時間を守るということの大切さを指導するため、保護者との連携・協力をさらに進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康だより」等を通して健康の大切さを伝えるとともに、心の悩みを抱える生徒には、スクールカウンセラー等との連携により指導の強化を図ることができた。 	
		・健康に留意した規則正しい生活を、80%以上の生徒が送っている。	・疾病や事故の防止についての指導を充実させるとともに、心の悩みを抱える生徒も見られるので、スクールカウンセラーや外部機関との連携により指導の強化を図る。	B	A	A	「健康だより」等を通して健康の大切さを伝えるとともに、心の悩みを抱える生徒には、スクールカウンセラー等との連携により指導の強化を図ることができた。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	・年間指導計画に沿った指導により、進路意識を確立できた生徒が80%以上である。	・進路講演会や総合的な探究の時間及びLHRを通して、キャリア意識を養うとともに、生徒の自己理解を段階的に深める指導に取り組む。	A	A	A	進路講演会の内容と時期について、3年間を見通した系統的な進路指導の計画を心がけ実施した。進路行事を効果的にを行い、生徒の自己理解と進路意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは、社会人に直接話が聞ける機会である。そのような機会はすばらしいので、今後も続けてほしい。評価はBだが生徒の意見等聞きながら、より良いものにしてほしい。 	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・幅広い視点から進路選択し、前向きに取り組んでいる生徒が80%以上である。	・インターンシップや高大連携事業を通じ、生徒たちのキャリア形成の充実を図る。	B	B	B		1年生全員が2日間のインターンシップを経験した。また2、3年生を中心とした希望者には公民館、保育園、看護体験を実施できた。今後も継続して実施していく。模試結果の分析を教員間で共有し、二者面談や三者面談において有効に活用した。生徒に還元するタイミングと方法を工夫する必要がある。
		9 適切な進路情報を提供していますか。	・進路関係配布物(ウェブページを含む)に、目を通して保護者が80%以上いる。	・学校からの情報発信手段としてホームページを活用する。	A	B	B		生徒に進路情報を提供した際には、必ずGSNメールで保護者にも連絡し周知した。来年度も継続して行う。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・ホームページの充実と更新に努め、年間50万ページビューを目標とする。	・ホームページの更新を定期的に行うとともに、各種教育活動実施後、迅速に活動内容をホームページ上に掲載する。	A	A	A	12月中旬時点では180万ビューで昨年度よりも20%増であった。関心も高まっていることでHP管理について、校内組織のあり方を見直し、各種教育活動実施後、迅速に活動内容を掲載する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とつながること、教育の質の向上を図るため、より充実したものにしてほしい。 ・清里地区のお祭りボランティアは非常に好評だった。次年度もお願いしたい。 ・学校外での活躍の場として、非常に意義があり、生徒にとって、新しい発見にもつながるのがよい。 ・外部人材を活用し、より充実したものを展開してほしい。 	
		・その他各種学校行事についてのPTA役員参加率は80%以上である。	・全ての日程を早めに連絡して、各行事への参加を打診する。	A	B	A	年度の初めにPTA本部役員・学級理事に対して年間計画を提示して、積極的な参加を依頼しておいた事により、校内清掃、マラソン大会(中止)への出席状況は、想定を上回る事ができた。今後も、早めに日程連絡と日々のコミュニケーションを頻繁に行うように努める。		
		・地域社会と連携していると感じている教職員が80%以上である。	・地元である清里地区との連携を継続する。	A	A	A	美術、書道、コンピュータ科学、吹奏楽の部員が清里公民館主催の夏休み教室への参加協力やJRC部員等の地域のお祭りボランティアなど、地域連携の充実を図ることができた。また、1学年生徒全員対象のインターンシップでは報告会に多くの企業担当者を招きご意見をいただくことで、取り組み全体の質を上げることができた。次年度も地域との連携の充実を図り、継続実施していく。		
VI 安全管理に努めていますか。	11 施設設備の安全管理は、十分になされていますか。	・安全点検が日常的になされており、校内に危険な箇所、危険な物品等について90%以上が改善されている。	・安全点検を毎月1回実施し、生徒、保護者アンケートの中で危険を指摘される問題点等については速やかに解決する。	A	A	A	危険と指摘された場所については速やかに点検し、改善が必要な場合には十分に対処することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車乗車時のヘルメット着用は、自分の身を守る上で、大事なことなので、より着用するようになってほしい。 	
		12 生徒の安全指導・安全確保が十分になされていますか。	・交通ルールやマナーを遵守し、交通事故防止について、生徒の80%以上が主体的に取り組んでいる。	・日常的な安全教育と登校時指導等により、事故防止の強化を徹底する。	B	A	A		交通安全に関する意識や、ヘルメット着用率を上げるために、生徒会や委員会が中心となって校内マナーアップ運動で啓発活動を行った。交通安全教室・生徒指導主事講話など、折に触れ、自転車事故防止の指導強化を図る。
		・健康安全に関する講話を80%以上の生徒が理解している。	・安全点検を毎月1回実施し、生徒、保護者アンケートの中で危険を指摘される問題点等については速やかに解決する。	B	A	A	適切に点検を実施し、危険を指摘された場合、速やかに対処することができた。		
VII 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	・ICTを日常的に授業で活用している教員が80%以上である。	・ICTを授業で効果的に活用するための職員研修を行い、活用事例を共有する。	B	A	A	全教職員が認識を深められるような研修は実施できなかったが、昨年度に比べて、授業でICTを活用している教員が増加した。一方で、生徒に身につかせたい学力観を共通認識した上で、生徒の学力向上につながるようなICT活用方法を検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・BYODやICT活用において、中学から高校になった時点で、活用における個人差はあるのか気になったが、授業や活用力について、入力に関しては問題がないとのこと安心した。 ・体育館での無線LANの環境において、40台使用しても、通信速度が重くならないのはよいと感じた。 	
		14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・ICTの活用により、業務が効率的に行えるようになったと感じている教職員が80%以上である。	・kinakoを導入することで、業務のスリム化、効率化を図る。	A	-	A		教務よりの確に指示をしたことで、職員会議や校務委員会での資料収集やClassroomにおける会議前の資料提示がスムーズに行われ、業務の効率化、ペーパーレス化が定着した。また、kinakoの導入により、紙媒体の情報資料が大幅に削減され、業務のスリム化が進んだ。